

6月23日(木)は富野教会におじゃましました。雨上がりの天気が幸いしたのでしょうか、これまでで一番多い14教会59名もの皆様方が集まってくれました。

黄仁坤牧師からは、蜜のように甘い言葉葉をただ味わうだけでなく、それが全身に行き渡るエネルギーにならなくてはならないとの奨励をいただきました。続いてのプレゼンテーションは、富野教会員の萩正博兄によるものです。教会の近況がよく伝わってきました。



後半の分かち合いは今回から小グループで行うことにしました。まず顔合わせを兼ねて「教会の自己発見シート」から、教会における世代間ギャップについて話し合いました。



富野教会についての分かち合いでは、「みくに幼稚園で培った地域との絆が、今の教会の働きに活かされていることを知りました」、「高須教会との10年の絆は財産だと思う」、「ポジティブオルガンによって賛美が祝されている様子を体験することができました」などの感想が寄せられました。富野教会の皆様方の温かいおもてなしを感謝します。

編集後記

6月11日(土)若松教会で行われた第12回おじゃさいコンサートを観に行きました。最初に登場したのは県立若松高校音楽部の混声合唱でした。最近の合唱はプラスバンドのように振りがついていて、生徒さん達の動きが見事に揃っていました。会場の礼拝堂は出演者と観客で150名近くいて、大入り満員でした。若松教会のメンバーが奉仕に徹しておられる姿を拝見して、背後に毎朝の祈りがあることを思いました。



次回予告

巻頭言：社会・ヤスクニ委員長
藤田英彦協働牧師(東八幡教会)
おじゃまします報告：大分教会

7月・8月の予定

- 7月15日(金)センター常任委員会 (東八幡)10時
- 21日(木)教会おじゃまします ~大分教会 14時
- 25日(月)小学科夏期学校 (源じいの森)~26日
- 8月8日(月)センター常任委員会 (東八幡)16時
- 11日(木)連合役員会(シオン山)
- 15日(月)青少年少女会夏の交流会 (シオン山)~16日
- 19日(金)全国壮年大会(西南女学院)
- 20日(土)全国壮年大会(シオン山)
- 25日(木)教会おじゃまします ~高須教会 19時

お知らせ

10月10日(月)
バプテスト北九州地方連合まつり
(シオン山) 10時~15時30分

連盟全国支援・地域協働プロジェクト
バプテスト北九州地方連合
宣教支援センターニュース 13号

発行責任者：山田雄次
発行所：〒805-0015
北九州市八幡東区荒生田 2-1-40
Tel&Fax：(093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日：2016年7月6日



ワールドカフェを開いてみませんか？
グローリーリンガーズ 30周年で賛美奉仕
被災地支援 5年目に 直方教会
教会おじゃまします 富野教会

写真：ワールドカフェの様子
(5/29 シオン山教会)



引き受けるということ 連合事務局
牧野 信栄(東八幡)

2012年連合事務局の開設にともない事務を、そして2015年より宣教支援センターの事務としても務めさせていただいています。皆さまのお祈りとお支えに心より感謝いたします。

私が北九州に転居して来たのが2009年ですが、そのころには宣教支援センターの基になる地域協働のプロジェクト構想の祈りと議論がなされて既に数年が経過していました。同年戸畑教会の解散を経験し、連合内でもなんとかせねばという危機感が更に募っていました。宣教会議、宣教支援センター構想委員会、準備委員会と連合内で議論が練られ、心を動かされる教会が増し加えられ、そして連合全体のうねりとなっていきました。

10年以上前から、宣教支援センターの軸となる祈りが興されていたことになりませんが、その過程で連合事務局に参加させられたものとして、カギとなると考えた理念が、「引き受ける」ということです。その大前提にあるのはイエス・キリストによって私たちが「引き受けられている」という事実です。

引き受けるということは、それによって出会った自分が何かを変えていくということです。一歩プログラムなどを通して、それぞれの教会同士が何かを引き受けあい、教会を変えていきました。ある教会は会議や集会の場所を提供するということを通して引き受け、教会を開いていきました(構想前からそのような働きはあったのですが)。連合総会で齊藤センター主事が就任のあいさつで献身の思いすなわち「引き受ける」ことを表明され、流れが一気に加速しました。連合役員の方皆さんも更に連合を引き受け始めたとともに、それぞれの教会が、自分たちの持っているものを他にも分かち合おうと真剣に考え始め、そして今現実的に教会間の協働の動きとして表れてきています。教会のカラーが多様なように、その動きも多様であることは、喜ばしいことではないでしょうか。

引き受けるのは、良いことだけではありません。あまり見たくない嫌な部分、面倒な部分をも引き受けることとなります。時には引き受けきれないときもあります。しかしその負担を複数で分かち合うことはできます。また敢えて信仰をもって引き受けた時に、主の祝福を見ることもあります。それらは、連合事務を引き受けた時から今に至るまでずっと見て、体験してきたことです。

宣教支援センターは、主イエスによって「引き受けられた」教会がお互いを「引き受けた」、教会の働きそのものなのです。それは切なる祈りから始まり、議論を重ね、そして引き受けることで実のある働きとして用いられています。

教会でワールドカフェを開いてみませんか。

○「教会の自己発見シート」が生まれた理由

宣教支援センター常任委員会では、「楽しくできる教会の自己発見スケール」の開発に取り組んでいます。今年3月の発行を目指していたのですが、より使いやすいものにするために、発行を延期することにしました。

そこで、運営委員会の作業会(1月17日)で出されていた質問文の中から、対話のきっかけになりそうなものを30問選んで、「教会の自己発見シート」を作りました。連盟定期総会(4月29日)の時に、教会毎に配らせていただきました。

○ワールドカフェ形式とは？

ワールドカフェ形式とは、会議における討論の手法の一つです。与えられたテーマについて、各テーブルに分かれて、打ち解けたカフェのような雰囲気の中で数名が対話をします。15分後に一人をテーブルマスターとして残して、あとのメンバーは他のテーブルに移動します。テーブルマスターから今までの対話の要点を聴き、さらに対話を深めます。最後に各テーブルマスターがまとめの報告を行い、成果を共有します。官公庁や企業では、10年以上前から広く使われている手法です。



○教会流ワールドカフェのやり方

5月29日の運営委員会では、後半の時間を使って、「教会の自己発見シート」の中から6問を選んで、ワールドカフェ形式による討議の時間を持ちました。

1)ファシリテーターを立てる

教会で行う場合には、お一人の方にファシリテーター(導き手)になっていただく必要があります。その方には全体司会とタイムキーパーの役割を担っていただきます。

テーマは一つに絞るよりも、テーブルの数だけ用意した方が、楽しい話し合いになると思います。「教会の自己発見シート」の質問をどうぞ用いてください。

2)グループの人数と準備するもの

一つの班の人数はなるべく4名から7名くらいが望ましいです。テーブルの真ん中には模造紙を1枚置き、これは大事だと思うコメントを誰でも自由にメモしてもらいます。マジックは各テーブルに複数本あると便利です。これが討論の記録になります。

3)バプテスト教会向けに工夫したこと

運営委員会の作業会では、テーブルマスターではなくレポーターを置いています。そして一度レポーターを務めた方は、続けてレポーターにならないルールにしました。一つでも多くのテーマの対話に参加できるようにするためです。

60分あれば、一人当たり4つのテーマ(レポーターになった方は3つのテーマ)について、グループ討論に参加することができます。運営委員会の作業会ではまとめの時間が取れないのですが、教会でなさる場合には、テーブル毎にまとめの発表をしていただくことをおすすめします。そうすることで、参加できなかったテーマについても、討論の様子を聴くことができます。

備考:「教会の自己発見シート」が必要な教会は、事務局までご連絡ください。



グローリーリンガーズ 30周年記念 苅田教会の礼拝奉仕

ハンドベルでおなじみのグローリーリンガーズが、今年で結成30周年を迎えます。メンバーの発案により、年間2教会を目安に、教会の礼拝賛美等の奉仕に出かけることになりました。

5月29日(日)に、リクエストのあった苅田教会で奉仕の機会を得ました。

佐藤清一牧師によりますと、ハンドベル演奏、ピアノ演奏による奏楽奉仕を通して、とても豊かな主日礼拝をささげることができたそうです。今年度後半にあと1教会、出かけたいたことです。ご希望の教会は連合音楽委員長の見玉一郎牧師までご相談ください。



被災地支援5年目に ～直方教会のクッキー作り～

6月8日(水)直方教会の午前祈祷会に参加した後、11時から行われた被災地支援のクッキー作りの作業を見学させていただきました。作業には教会員以外の地元の方も参加されていて、原口悦子牧師をはじめ10名が参加していました。

あらかじめ生地をこね、サランラップの外箱を型にして冷凍しておいたものを、スライスして焼き、個包装するまでが今日の作業でした。ガスオーブンで焼くのに10分弱かかるため、時間はかかりますが、待ち時間におしゃべりができることも楽しみの一つになっているようでした。今回の作品は、盛岡教会経由で大槌町の仮設住宅に提供されるそうです。

直方教会は東日本大震災が起きた2011年からクッキー作りの支援を始め、今年で5年目になります。盛岡教会、大富教会、郡山コスモス通り教会を通して、仮設住宅等の支援活動に用いられています。5年目を迎えて、現地では仮設住宅から災害復興



住宅に移行しつつある地域と、福島地区など依然として仮設暮らしが続く地区とがあるそうです。必要とされる限り、教会としての支援活動を続けていきたいとお話でした。尊いお働きを感謝します。